

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			1..1	Coding		
n.1.1			system		1..1	uri	“http:// jpfhir.jp/fhir/eDischargeSummary/ CodeSystem/ eDischargeSummary”	文書カテゴリコードのコード体系を識別する URI。固定値。
n.1.2			code		1..1	code	“00”	文書カテゴリコード。 ”00:退院時サマリー”
n.1.3			display		0..1	string	“退院時サマリー”	コードの表示名

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。

多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 1..1	CodeableConcept	“http:// jpfhir.jp/fhir/ eDischargeSummary /CodeSystem/ eDischargeSummary” “00”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	--	----

表 Encounter リソース 紹介先受診情報

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
resourceType						“Encounter”	Encounter リソースであることを示す
status				1..1	code	“planned”	この受診のステータス EncounterStatus(http://hl7.org/fhir/ValueSet/encounter-status)より“finished”を指定する。固定値。
class				1..1	Coding		紹介先に予定している受診イベントの分類。 外来か入院か不明の場合には、外来としておくこと。
	system			1..1	uri	“ http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v3-ActCode ”	コード体系 v3.ActEncounterCode を識別する URI。固定値。
	code			1..1	code	“IMP” または “AMB”	「IMP:入院(impatient)」または、「AMB:外来受診(impatient)」
	display			1..1	string	“入院” または “外来”	
reasonCode				1..* 0..*	CodeableConcept	“urn:oid:1.2.392.200119.4.101.6” “B0EF” “持続腹痛” “持続する腹痛の精査目的”	紹介する理由（主訴・目的） コードで記述できる場合にそのコード記述。system 値は MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードを使用する場合の例示。“B0EF”は、MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードで“持続腹痛”のコード。

